



TITLE:

後部尿道ポリープ(Ectopic Prostatic Tissue)の2例

AUTHOR(S):

多田, 晃司; 山羽, 正義; 田村, 公一; 藤広, 茂; 河田, 幸道

CITATION:

多田, 晃司 ...[et al]. 後部尿道ポリープ(Ectopic Prostatic Tissue)の2例. 泌尿器科紀要 1990, 36(6): 717-720

ISSUE DATE:

1990-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/116919>

RIGHT:

後部尿道ポリープ (Ectopic Prostatic Tissue) の2例

浜松赤十字病院泌尿器科 (部長: 田村公一)

多田 晃司, 山羽 正義, 田村 公一

岐阜大学医学部泌尿器科学教室 (主任: 河田幸道教授)

藤広 茂, 河田 幸道

TWO CASES OF BENIGN POLYPS OF THE POSTERIOR URETHRA (ECTOPIC PROSTATIC TISSUE)

Koji Tada, Masayoshi Yamaha and Masakazu Tamura

From the Department of Urology, Hamamatsu Red Cross Hospital

Shigeru Fujihiro and Yukimichi Kawada

From the Department of Urology, Gifu University School of Medicine

We report two cases of benign polyps of the posterior urethra. Their first symptoms were gross hematuria and urinary frequency. Both specimens obtained by transurethral resection were histologically identified as prostatic tissue. Discussion on benign polyps of the posterior urethra as ectopic prostatic tissue was done with review of literature.

(Acta Urol. Jpn. 36: 717-720, 1990)

Key words: Benign polyps, Posterior urethra, Ectopic prostatic tissue

緒 言

後部尿道に発生するポリープのうち、前立腺上皮由来のものを、Nesbit は、異所性前立腺組織と命名し、報告している¹⁾。本症は比較的まれな疾患と考えられるが、男子の原因不明の血尿や血精液症の原因として考慮すべき疾患の一つと考えられる。今回われわれは精丘付近に認められた後部尿道ポリープ (異所性前立腺組織) の2例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

症 例

症例 1

患者: 60歳, 男性

主訴: 肉眼的血尿

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1987年3月中旬, 性交を行った翌朝にだけ見られる肉眼的血尿に気づいたが, 放置していた。4月に入り再び同様の症状が出現したため当科を受診した。排尿困難, 排尿時痛および血精液症は認めなかった。

現症: 外性器に異常みとめず, 前立腺も触診上異常

なし。

検査成績: 検尿; pH 6.2, 蛋白 (-), 糖 (-), 潜血 (+), ウロビリノーゲン (-), RBC 10~15/hpf, WBC 0~1/hpf, 尿細胞診: class 1. 末梢血液・血清生化学的検査; 異常なし。IVP; 異常なし。膀胱尿道鏡検査では膀胱内に異常は見られなかったが, 後部尿道の精丘から中枢側に大豆大, 広基性, 半球状の腫瘍を認めた (Fig. 1)。

以上の所見より前立腺部尿道に発生した尿道ポリープと診断し, 入院の上1987年4月15日腰麻下に経尿道的切除術 (以後 TUR) をおこなった。

病理組織所見: 腫瘍表面に重層性に肥厚した移行上皮を認め, 内部には平滑筋を多く含む結合組織に高円柱上皮を有する hyperplastic な腺管が乳頭状の増殖をしていた。典型的な前立腺組織と診断された (Fig. 2)。

経過: 術後4日で退院, 以後血尿は認められず, 再発もきたしていない。

症例 2

患者: 53歳, 男性

主訴: 頻尿

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

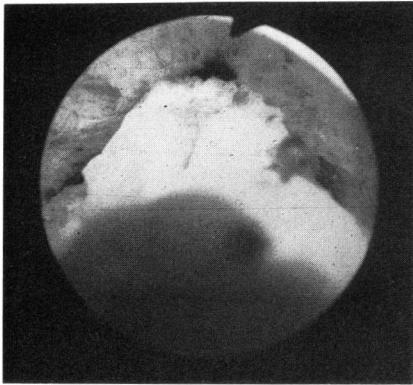


Fig. 1. Cystourethroscopic finding of case 1. A small, broad-based hemispheric tumor is caught in sight at the slightly distal site of vermontanum.

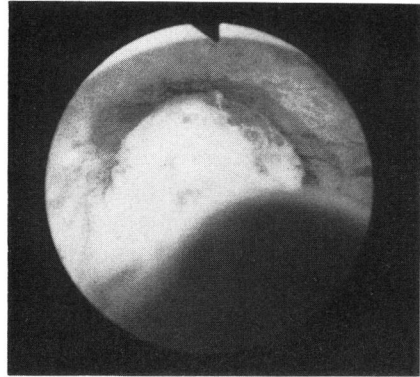


Fig. 3. Cystourethroscopic finding of Case 2. There is a small, broad based hemispheric tumor in the same site as in Case 1. Its surface is rougher than that in Case 1.



Fig. 2. Histological finding of Case 1. There are some ducts into which the tall columnar epithelia grow papillately. This is identified as a prostatic gland. HE $\times 100$.

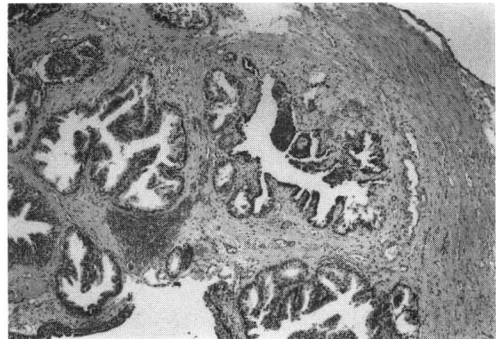


Fig. 4. Histology of Case 2. Histological findings are similar to those obtained in Case 1. HE $\times 100$.

現病歴：1987年10月中旬より頻尿に気づいたため当科を受診した。頻尿は間欠性で排尿困難や排尿時痛は認めなかった。初診時の検尿では、顕微鏡的血尿および膿尿は認めなかった。前立腺は触診上異常は認めず、IVPでも異常所見を認めなかった。症状が一時軽快したため、外来にて経過観察を行っていた。1987年12月に再び同様の頻尿が強くなったため、膀胱尿道鏡検査を行ったところ、後部尿道の精丘から中樞側に症例1と同様に大豆大、広基性、半球状の腫瘍を認め、後部尿道ポリープと診断した (Fig. 3)。

入院時検査成績：検尿；pH 6.7，蛋白（－），糖（－），潜血（－），ウロビリノーゲン（－），RBC 2～3/hpf，WBC 0～1/hpf，尿細胞診；class 1。末潜血液・血清生化学的検査；異常なし。

治療経過：1987年12月17日腰麻下にTURを施行した。患者は術後2日で退院、頻尿は消失した。再発

は認めていない。

病理組織所見：移行上皮に覆われた腫瘍内に円柱上皮を有する腺管があり、典型的な前立腺組織であった (Fig. 4)。

考 察

男子尿道の良性腫瘍は、1973年に Mostofi and Price²⁾ の唱えた AFIP 分類によると、病理組織学的に、transitional epithelium の3型と columnar epithelium の1型および squamous epithelium の1型に分類されている。本症例はこのうち adenomatous polyps with prostatic type epithelium にあたると思われる。一方、本疾患の最初の報告は、1913年に Randall³⁾ によって男子尿道ポリープに腺胞を有するものとして行われている。その後 Nesbit¹⁾ が同様のポリープに酸ホスファターゼ染色を施し、ポリープ内の円柱上皮細胞中に酸ホスファターゼ顆粒が存

在することを見出し, これが前立腺上皮由来であると証明した. さらにこの尿道ポリープは, 本来尿道粘膜下で発達すべき前立腺組織が, Lewsley⁴⁾ の分類した胎生期の前立腺 7 部分以外である尿道腔に突出しながら発達していることにより ectopic prostatic tissue として認識されるようになった. しかも, 単に異所性前立腺という場合, 本来の前立腺部以外のみならずこれまで数例報告されている膀胱内や尿路外に発生したものも含まれている. したがって本疾患は男子尿道ポリープと異所性前立腺という 2 つの概念が重なったものと言うことができる.

原因としては Nesbit が唱えた, 胎生期の発生過程で尿道壁内に陥入しながら発達すべき前立腺組織が尿道腔内に迷入しつつ発達したという説と, Remick⁵⁾ の移行上皮の metaplasia によるという説が主であるが, ポリープ内に前立腺以外の組織の存在を報告した

ものはなく, 前者の説が有力視されている.

Butterick ら⁶⁾ が 1971 年にまとめた報告によれば, 症状は 73 例中 65 例が血尿で, そのうち 46 例 (63%) が肉眼的血尿, 23 例 (32%) が顕微鏡的血尿であったが, 血精液症や排尿障害もみられることがある. 発症年齢は, 13 歳から 63 歳 (平均 31 歳) である. 本邦にもこれまでに文献上 46 例の報告⁷⁻¹⁹⁾ があり (Table 1), 年齢は 12~82 歳, 平均 44.4 歳, 症状は血尿が多く 31 例 (67.3%) で, そのうち 25 例 (54.3%) が肉眼的血尿, 6 例 (13%) が顕微鏡的血尿であった. その他血精液症, 排尿困難もみられたが, 症例 2 のような頻尿を主症状とするものはまれである. 発生場所は精丘付近が大半で, 多発することもある. 治療は TUR で全治しうるが, 再発例^{9,12,14)} も報告されているので術後十分な経過観察が必要である.

泌尿器科外来でかなり多く見られる原因不明の血尿には, 本症を疑い積極的に内視鏡検査をおこなうべきものと思われた.

結 語

後部尿道ポリープの 2 例を報告し文献的考察をおこなった.

尚, 本論文の要旨は第 157 回日本泌尿器科学会東海地方会にて発表した.

文 献

- 1) Nesbit RM: The genesis of benign polyps in prostatic urethra. J Urol **87**: 416-418, 1962
- 2) Mostofi FK and Price EB Jr: Tumors of the male genital system. In: Atlas of Tumor Pathology, Armed Forces Institute of Pathology, 2nd series, pp. 263-269, AFIP, Washington DC, 1973
- 3) Randall A: A study of the benign polyps of the male urethra. Surg Gynecol Obstet **17**: 548-562, 1913
- 4) Lewsley OS: The human prostate gland at birth, with a brief reference to its fetal development. JAMA **60**: 110, 1913
- 5) Remick DG and Kumar NB: Benign polyps with prostatic-type epithelium of the urethra and the urinary bladder. A suggestion of histogenesis based on histologic and immunohistochemical studies. Am J Surg Pathol **8**: 833-839, 1984
- 6) Butterick JD, Schnitzer B and Abell MR: Ectopic prostatic tissue in urethra: a clinico-pathological entity and a significant cause

Table 1. 本邦における後部尿道ポリープ (異所性前立腺) 報告例

NO	年齢	主 訴	治 療	再 発	報 告 者
1	42	肉眼的血尿	TUR	(-)	小柳 (1970)
2	21	血精液症	"	(-)	"
3	19	顕微鏡的血尿	"	(-)	"
4	21	肉眼的血尿	"	(-)	"
5	59	血精液症	"	(-)	"
6	57	顕微鏡的血尿	"	(-)	"
7	29	肉眼的血尿	"	(-)	小杉 (1977)
8	59	"	"	(+)	Hara (1977)
9	41	"	"	(-)	"
10	32	血精液症	"	(-)	"
11	48	肉眼的血尿	"	(-)	"
12	63	排尿困難	"	(+)	"
13	37	血精液症	"	(-)	"
14	34	肉眼的血尿	"	(-)	"
15	30	顕微鏡的血尿	"	(-)	"
16	38	肉眼的血尿	"	?	"
17	23	"	"	?	"
18	61	"	"	(-)	"
19	21	"	"	(-)	"
20	32	"	"	(-)	"
21	54	"	"	(-)	"
22	45	"	"	(-)	"
23	47	"	"	(-)	"
24	63	"	"	(-)	"
25	42	"	"	(-)	"
26	34	"	"	(-)	"
27	49	"	"	(-)	"
28	32	"	"	(-)	"
29	80	排尿困難	"	(-)	松下 (1979)
30	12	肉眼的血尿	摘出術	(-)	林正 (1979)
31	36	尿道出血	TUR	(+)	小川 (1982)
32	31	顕微鏡的血尿	"	(-)	目時 (1987)
33	59	右側腹部痛	"	(-)	"
34	54	顕微鏡的血尿	"	(-)	"
35	54	排尿障害	"	(-)	辻 (1987)
36	82	"	"	(-)	"
37	41	血精液症	"	(+)	"
38	52	"	"	(-)	"
39	55	排尿障害	"	(-)	"
40	62	顕微鏡的血尿	"	(-)	小村 (1987)
41	47	尿路精査	"	(-)	"
42	36	肉眼的血尿	"	(-)	井上 (1987)
43	69	血精液症	"	(-)	"
44	41	肉眼的血尿	"	(-)	北野 (1988)
45	50	"	"	(-)	平石 (1988)
46	47	"	"	(-)	植村 (1988)
47	60	"	"	(-)	自験例
48	53	頻尿	"	(-)	"

- of hematuria. *J Urol* **105**: 97-104, 1971
- 7) 小柳知彦, 石川登喜治, 高村孝夫: Ectopic Prostatic Tissue—成人男子血尿の1因. *臨泌* **26**: 61-65, 1970
- 8) 小杉雅朗, 大塚 晃: 男子前部尿道腫瘍症例. *日泌尿会誌* **68**: 806, 1977
- 9) Hara S and Horie A: Prostatic caruncle: a urethral papillary tumor derived from prolapse of the prostatic duct. *J Urol* **117**: 303-305, 1977
- 10) 松下高暁, 三橋公美: 後部尿道乳頭状腫瘍の1例. *日泌尿会誌* **70**: 1295, 1978
- 11) 林正健二, 滝 洋二: VUR を伴った尿道異所性前立腺組織の1例. *泌尿紀要* **25**: 67-69, 1979
- 12) 小川 肇, 内藤善文, 石田 肇, 今村一男, 杉山喜彦, 豊田 泰: 男子尿道腫瘍の3例について. *日泌尿会誌* **73**: 518-519, 1982
- 13) 目時利林也, 栃木達夫, 石川博夫, 星 宣次, 金藤博行, 高橋 徹: Ectopic Prostatic Tissue の3例. *西日泌尿* **49**: 159-162, 1987
- 14) 辻 明, 高尾雅也, 藤岡俊夫, 村井 勝, 玉井 誠一: 尿道の前立腺上皮性ポリープ. *臨泌* **41**: 164-165, 1987
- 15) 小村隆洋, 吉田利彦, 森本鎮義, 新家利明, 大川順正: 前立腺部尿道に発生した乳頭状腺腫 (adenomatous polyps with prostatic type epithelium) の2例. *泌尿紀要* **33**: 1132-1138, 1987
- 16) 井上克己, 桜井秀樹, 星野真希夫, 小川 肇, 檜垣昌夫, 石田 肇, 今村一男, 松島 常: 前立腺上皮からなる尿道ポリープの2例. *日泌尿会誌* **78**: 2195-2198, 1987
- 17) 北野嘉彦, 吉村光司, 石川二郎, 松本 修, 守殿貞夫: 後部尿道乳頭腫の1例. *泌尿紀要* **34**: 701-704, 1988
- 18) 平石政治, 藤沢明彦, 熊谷久治朗: 尿道の前立腺上皮性ポリープの1例. *臨泌* **42**: 831-833, 1988
- 19) 植村天受, 馬場谷勝廣, 生間昇一郎, 平尾佳彦, 岡島英五朗: 後部尿道ポリープの1例. *臨泌* **42**: 353-355, 1988

(Received on August 24, 1989)

(Accepted on October 30, 1989)